



リハビリ訪問看護ステーション蓄

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素よりリハビリ訪問看護ステーション蓄（以下蓄）の活動にご理解ご協力頂き誠に有り難うございます。

近年日本では、超高齢化社会の到来により心不全患者が急増している現状があります（生活習慣の欧米化に伴う虚血性心疾患：心筋梗塞、狭心症、高血圧や弁膜症など）。

心不全は、さまざまな心疾患がたどる終末像であり、高齢者が最も気をつけなくてはいけない心臓トラブルの一つでもあります。

罹患者数は全国で約120万人、2030年には130万人に達すると推計されています。がんの罹患者数が約100万人であることから見ても、心不全の患者さんがかいかに多いかが分かります。また、心不全にかかる可能性は、80代になると50代に比べて10倍も高くなります。そのため、心不全患者では、平均年齢が男性75歳、女性81歳と高齢者に多いのが特徴です。

現在多くの病院で心不全診療としての急性期入院加療においては、病期に合わせた積極的な加療（投薬、運動療法、栄養管理）に成功しています。しかし退院後に症状の憎悪が起こり再入院を繰り返す臨床像が問題となっています（退院後の訪問看護及び訪問リハビリの介入率は6%程度：神戸市立医療センター中央市民病院調べ 以下中央市民病院）。

日本での心不全憎悪による再入院率は退院後6か月以内で27%、1年後は35%と高い割合で推移しています。また心不全患者1カ月間の入院生活で平均120万円の医療費が使われているとの報告もあります。

さて蓄では、中央市民病院が中心となり取り組んでいる神戸心不全ネットワーク(Kobe Heart Failure Network:KHFN)のプログラムに参加しています。このネットワークでは“心不全患者さんを地域全体で診療する”ことを掲げ、急性期病院/療養型病院/診療所/そして在宅訪問医療に至る地域の医療機関が一体となった“心不全患者に対する地域包括ケア”を目指しています。

蓄では中央市民病院や地域の医療機関と連携し心不全患者が退院し在宅生活開始に併せ、心身/運動機能低下を招かめよう、いち早く訪問看護導入による「包括的疾患プログラム（運動療法、服薬管理、栄養管理）」の取り組みを行うことで再入院率低下を目指しています。

このプログラムに参加している医療施設、訪問看護ステーションスタッフは定期的な研修会を通し心不全患者の病理理解に努め、ネットワーク運用などのスキルを研鑽しています。

KHFNの取り組みにご理解いただき、地域連携にご協力頂ければ幸いです。

今後とも蓄をよろしくお願い致します。



お問い合わせ先 TEL 078-599-79901 FAX 078-330-3754

【兵庫事務所】

〒652-0033 神戸市兵庫区西上橋通1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

【神戸西事務所】

〒655-0013 神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

